2024 年 4 月 5 日

会員企業各位

株式会社 PR TIMES
執行役員 カスタマーリレーションズ本部長
三浦和樹

【復旧済み、PR TIMES STORY】 公開状態でないストーリーのタイトル、サムネイル画像、ハッシュタグが閲覧可能な状態となっていた障害に関するお詫びとご報告

平素より「PR TIMES STORY」をご利用いただきまして誠にありがとうございます。

2024 年 4 月 4 日（木）18:31 から 21:42 の間、「PR TIMES STORY」において、公開状態にないストーリーのタイトル、サムネイル画像、ハッシュタグが一部のページに表示される障害が発生していました。「PR TIMES」のプレスリリースにおいては同様の事象は発生しておりません。

この障害に伴い、ストーリーが下書き、投稿予約、非公開の状態であった企業について、各企業の個別プレスリリースページ最下部と、企業ページ内ストーリータブにおいて、タイトル、サムネイル画像（メイン画像）、ハッシュタグが閲覧可能な状態となっておりました。本障害は、同日 21:42 に復旧対応を完了しております。ストーリー個別ページはアクセスできない状態にあり、本文をはじめ、メディア会員限定情報の閲覧、素材ダウンロードはできない状態にあったことを確認しています。

本来であれば表示されるべきでないタイミングで表示されてしまったことは、皆様からお預かりした大切な情報発信を担うプラットホーム運営企業にとって決してあってはならないことであり、会員企業様ならびに関係各所の方々へ、多大なるご迷惑をお掛けいたしましたことを深くお詫び申し上げます。つきましては、下記の通り経緯と原因、対策につきましてご報告申し上げます。

記

１．概要

当社が運営する PR TIMES STORY において、公開状態にないストーリー3886 件（2793 社）のタイトル、サムネイル画像（メイン画像）、ハッシュタグが、閲覧可能なページ内に表示される障害が発生いたしました。その内 37.9%にあたる 1475 件が表示されたページへのアクセス履歴(*1)を確認しています。表示されたページは主に個別のプレスリリースページ（ストーリーの掲載位置はページ最下部）でした。

(*1) 検索エンジンによる自動アクセスなどを含みます

２．経緯

≫4 月 4 日（木）

18:31　PR TIMES STORY の新たな API を実装、障害が発生

21:12　当社従業員が、下書き状態のストーリーが企業ページに掲載されている事象を認知、開発部門にて原因調査を開始

21:17　当社開発部門が障害の要因を特定し、復旧作業を開始

21:42　新たな API の実装前の状態を復元し、完全に復旧

≫4 月 5 日（金）

08:00　影響範囲、対象企業様を特定

10:10　当社より対象企業様 2793 社へメール送信にて速報

３．原因と再発防止策

PR TIMES STORY の新たな API(*2)を作成するにあたり、表示するストーリーのステータス（公開・非公開などの状態）を限定する機能の設定に不備があり、またそれを検知することなく実装しました。これにより、PR TIMES STORY の API を利用して公開状態でないストーリーが閲覧可能な状態となりました。ご利用企業をはじめとするユーザーの皆様への影響が想定される機能実装は QA（品質保証）専任担当による検証を行われるところ、想定範囲や影響度合の判断について明確に定めておらず、今回その検証手順を経ることなく、開発担当者同士の相互確認を経て実際の利用環境に実装されました。

再発防止策として、情報表示に係る機能実装は今後、QA（品質保証）専任担当による検証を必須とします。また、QA（品質保証）において確認する項目を整備し、情報表示に関連する箇所においてはより厳重な項目設定を行うことで、障害発生を未然に防ぎます。また、本番環境に実装しながらも当社従業員のみテストできる機能を用いて、上述の設定項目がクリアできているかを確認します。

(*2) API は「アプリケーション・プログラミング・インターフェース」の略称で、異なるソフトウェア同士を繋ぐインターフェースを指します。API をアプリケーション等に組み込むことで、外部のアプリケーションや機能を利用できるようになります。

４．今後の対応

刷新予定だった API のプログラムを調整し、4 月中の実装を予定しております。API の刷新により PR TIMES STORY の API と PR TIMES サーバーの結合度が下がり、システムがより堅牢になります。また、PR TIMES STORY の API を CDN(*3)にキャッシュさせることで、より高速なサイト表示とサーバーの負荷軽減ができるようになります。

(*3) CDN は「コンテンツ・デリバリー・ネットワーク」の略称で、一度読み込んだデータを記憶・保存させる仕組みです。これにより、Web ページの表示速度を上げられます。

この度は、皆様へ多大なるご迷惑をお掛けし誠に申し訳ございません。改めてお詫び申し上げます。

今後もどうか「PR TIMES STORY」をご愛顧いただけますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

PR TIMES STORY：https://prtimes.jp/story

以上